【授業科目】細胞診断学演習Ⅲ（呼吸器系）　Practice of Diagnostic CytologyⅢ (Respiratory System)

担　当　教　員	開講年次	選択必修	単位数	時間数	授業形態	実務経験	オフィスアワー	教職員への授業公開
白石 泰三、澤田 浩秀、金子 千之 郡司 昌治、中西 太、平澤 浩、矢野 孝明	４年次 前　期	自由	3	135	演習	あり	巻末 掲載	可

授業概要 （内容と進め方）	細胞検査士養成課程の専門科目として、呼吸器系の細胞診断について学修する科目である。喀痰、肺胞洗浄液、気管支擦過検体、肺穿刺検体などを材料として扱い、各種腫瘍性疾患を中心とした細胞学的特徴についての知識を得ることにより、実際の診断に結び付けることを目的とする。腫瘍性疾患に限らず、呼吸器感染症、アスベスト関連疾患についても教授する。 課題に対するﾌｨｰﾄﾞﾊﾞｯｸ方法／レポート提出を課した場合は、提出されたレポートにコメントを付けて返却する。
実務経験に関する授業内容	細胞診専門医、細胞検査士の臨床経験をもつ教員が、細胞検査士養成課程の学生に必用な実践的な呼吸器系細胞診断の知識および技術について、細胞診断学の資料・教材を交えながら講義および実技指導を行う科目である。
授業の位置づけ	本学のディプロマ・ポリシー①「臨床検査の専門性と責務を自覚するとともに、地域に住むあらゆる健康レベルの人々に専門的知識と技術に基づき臨床検査を実践できる。」の達成に寄与している。
到達目標 （履修者が到達すべき目標）	①呼吸器疾患（感染症、アレルギー疾患、非腫瘍性肺疾患など）の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。 ②呼吸器疾患（肺癌、非上皮性腫瘍）の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。 ③縦隔・胸腺疾患の病理組織学的特徴と細胞像について理解できる。
時間外学習に必要な学修内容および学習上の助言	・　毎回の授業に対する予習、復習を必ず行うこと。 ・　本講義で学んだ知識は、実際のスクリーニング、診断に必要であるため、標本をしっかり観察し、さまざまな細胞について十分な鑑別できなければならない。 ・　１回の講義または実習につき、60 分程度の予習および 180 分程度の復習を行うこと。 ※上記時間については、指定された学修課題に要する標準的な時間を記載してあります。日々の自学自習全体としては、各授業に応じた時間（２単位１５回科目の場合：予習+復習４時間／１回）（１単位１５回科目の場合：予習+復習１時間／１回）（１単位８回科目の場合：予習+復習４時間／１回）を取るよう努めてください。詳しくは教員の指導に従ってください。

授業計画		
第 1～2 回	呼吸器系臓器の正常構造	澤田
第 3～4 回	呼吸器疾患の病理組織と細胞像（アレルギー疾患、感染症、非腫瘍性肺疾患）	白石
第 5～6 回	呼吸器疾患の病理組織と細胞像（扁平上皮異形成、扁平上皮癌）	白石
第 7～8 回	呼吸器疾患の病理組織と細胞像（腺癌、神経内分泌癌）	白石
第 9～10 回	呼吸器疾患の病理組織と細胞像（非上皮性腫瘍）	白石
第 11～12 回	呼吸器疾患の病理組織と細胞像	郡司
第 13～14 回	呼吸器疾患の細胞診演習①	伊藤
第 15～16 回	呼吸器疾患の細胞診演習②	金子
第 17～18 回	呼吸器疾患の細胞診演習③	金子
第 19～20 回	呼吸器疾患の細胞診演習④	中西
第 21～22 回	呼吸器疾患の細胞診演習⑤	平澤
第 23～24 回	呼吸器疾患の細胞診演習⑥	矢野
第 25～26 回	呼吸器疾患の細胞診演習⑦	澤田
第 27～28 回	呼吸器疾患の細胞診演習⑧	澤田
第 29～30 回	縦隔・胸腺疾患の病理組織と細胞像	白石
第 31～32 回	縦隔・胸腺疾患の細胞診演習①	郡司
第 33～34 回	縦隔・胸腺疾患の細胞診演習②	金子

評価方法 評価基準	成績は以下の評点配分によって総合的に判断する。 授業態度 20%　　学期末試験 80%		
教科書	『細胞診を学ぶ人のために 第６版』医学書院、 『スタンダード細胞診 第４版』医歯薬出版、 『細胞検査士細胞像試験問題集 第２版』医歯薬出版	参考書等	『基礎から学ぶ細胞診のすすめ方 第４版』近代出版、 『細胞診鑑別アトラス』医歯薬出版
関係する他の科目	解剖組織学、病理学、血液学、病理検査学、臨床細胞学総論Ⅰ、臨床細胞学総論Ⅱ、臨床病態学Ⅰ、臨床病態学Ⅱの基礎知識を必要とするため、これらの科目を十分学修する必要がある。		
学生へのメッセージ	・　細胞検査士養成過程を選考した学生にとっての必須科目である。 ・　細胞検査士認定試験に合格することを覚悟し、十分な学修を行うこと。		